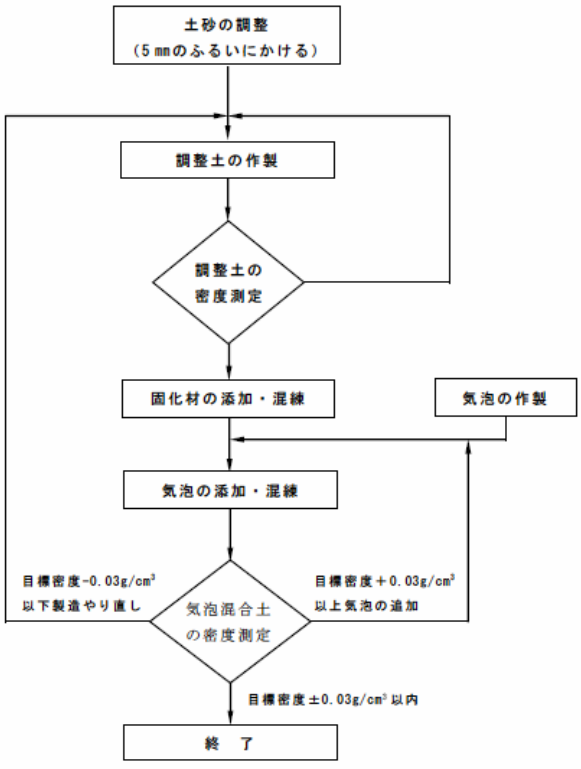
資料－３

気泡混合補強土工法

本工法は、現地発生土や建設発生土に水とセメント等の固化材を混合して流動化させたものに、気泡を混合して軽量化を図るものである。混合物は作成直後には流動性を示すが、固化材の反応により最終的には良質な盛土材、それ以上の強度特性を有する固化処理土となる。

通常の土砂に比べて軽量であるため、地盤などに与える荷重を軽減することができる。また、流動性が高いことから、ポンプ圧送による流し込み施工を行うことができ、転圧が不要なため施工が容易となる。本工法の軽量性、流動性、自硬性により、構造物の裏込めや軟弱地盤での拡幅盛土、空洞充填などに適用できる。

称





－気泡発生状況－

